

令和 2 年 4 月 27 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2019

課題番号：15K11883

研究課題名（和文）地区組織のコミュニティ・エンパワメントモデルの適用とハンドブックの作成

研究課題名（英文）Application of community empowerment model in community organization and creation of handbook.

研究代表者

中山 貴美子（Nakayama, Kimiko）

神戸大学・保健学研究科・准教授

研究者番号：70324944

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、コミュニティが地域組織活動を通じてコミュニティ・エンパワメントしていく過程の保健師による支援モデルを開発することであった。モデルは、コミュニティと保健師、住民と保健師の関係性、影響要因の4つで構成された。本モデルは、保健師が地域組織活動を通じてコミュニティを支援することに示唆を与えたと考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、これまで明確化されてこなかった地域組織活動を通じてコミュニティをエンパワメントする支援技術のモデル化ができた点である。社会的意義は、地域組織活動を通じてコミュニティをエンパワメントする支援技術を保健師に明示できた点である。

研究成果の概要（英文）：The purpose of the present study was to development of draft support model for public health nurses to promote the process of community empowerment through community organization activities of community. The model consisted of four factors: community and public health nurse, relationship between residents and public health nurse, and influential factors. This model was thought to give implications for public health nurses to support communities through community organization activities.

研究分野：公衆衛生看護

キーワード：地域組織活動 コミュニティ エンパワメント 保健師

1. 研究開始当初の背景

地域を基盤として地域活動を行う組織には、地域組織がある。地域活動を推進する保健師の地域組織への支援に関する研究では、ヘルスプロモーション推進方法(金子, 2001)やヘルスプロモーションを推進する住民組織への支援方法(田口, 2004)、住民組織活動が地域づくりに発展するための保健師の支援内容(中山, 2009)等において、住民の意思決定や学習の支援等の支援内容が明らかにされてきた。しかし、保健活動の場では、業務分担制による地区活動の衰退や地域組織活動の支援技術の不足等により、地域組織活動の支援に課題を抱えている(Nakayama et al, 2017)。

このような中、保健分野では、2000年代に入り、エンパワメントの概念が注目されてきた。保健関連雑誌での特集が生まれ(麻原, 2000)(中山, 2006)、その理論が実践に取り入れられてきた。エンパワメントには、個人・組織・地域のレベルがあり(野嶋, 1996)、それらは相互に関連している(清水, 1997)。コミュニティ・エンパワメント(以下、CEと略す)は、地域で活動することに価値をおき、個人の生活、組織の機能、コミュニティの生活の質に影響する決定要因に対して、統御や影響を及ぼすための努力の過程と結果を表す理論である(Zimmerman, 2000)。つまり、CEとは、地域において、地域の住民が自分たちの力で問題を解決していく力量が形成されていくこととその結果のことである。地域組織は、一定の地域の中で、そこに住む住民が自分たちの課題の解決のために、組織的な取り組みを行う組織であり、地域に住む住民が地域組織の活動を通して、自分たちの問題を自分たちで解決していく力が生み出され、個人・集団・地域としてエンパワメントしていくことが重要である。

CEの先行研究では、住民組織のCE過程の質的評価指標の開発(中山, 2007)やコミュニティが生成される過程(大木, 2006)が明らかになっているが、コミュニティという集団に焦点をあてて、地域組織活動を通してCEしていく過程とそれを支援する保健師の支援内容は明らかになっていない。保健師が、地域を基盤としてコミュニティを支援し、住民主体の健康づくりを支援していくためには、コミュニティのCEの過程を的確に把握しその過程に応じた支援を促すモデルの開発が求められている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、コミュニティという住民の集団を単位にして、コミュニティが地域組織活動を通してCEしていく過程を明確化し、保健師がその過程を支援するモデルを開発することである。本研究の意義は、保健師が一定の地域を基盤にして、コミュニティがCEしていく過程とその支援についてわかりやすく概念化することで、実践の場における保健師の理解と支援を促し、地域組織活動の活性化による健康な地域づくりにつながることである。

3. 研究の方法

1. 研究方法

本研究方法は文献研究である。文献の内容をデータとして用いた。文献研究の方法を用いた理由は、CEに関する論文が一定数蓄積されてきたことから、既存の知見を整理・統合することで、モデルの概念枠組みと要素等を明確化することが可能と考えたからである。

2. 対象とデータ収集方法

文献は、1993 年から 2013 年発表の文献を対象に、特定非営利法人医学中央雑誌刊行会を用いて検索した。「CE」のキーワードで 4 件、「地域組織」で 14 件の文献が検索された。同様に、国立情報科学研究所 Cinii Articles で、「CE」56 件、「地域組織」で 75 件の文献が検索された。この中から、重複している文献や事例研究、活動解説等を除き、エンパワメントと CE、コミュニティ・地域組織への保健師の支援について記載されている文献 18 本を対象とした。さらに、エンパワメント理論と保健師による地域組織への支援について記載された書籍 5 冊、合計 23 文献を分析対象とした。結果の妥当性と信頼性は、共同研究者内で検討した。倫理的配慮として、本研究は、神戸大学大学院保健学研究科倫理委員会（承認番号 133、平成 23 年 12 月 13 日承認）の承認を得て実施した。

3. モデルの作成方法

1) 概念枠組みの作成

まず、文献に基づき、支援モデルの考え方の枠組み（南，2008）となる概念枠組みを作成した。本研究の主要な概念は、コミュニティが CE する過程とその過程への保健師による支援である。そこで、文献から、これらの現象に関する記述内容をデータとして抽出し、データの意味内容を分類し、意味の異なる大枠を要素として抽出した。また、これらの現象において、その要素をどのように捉えるのか、それらの関係を研究者で繰り返し討議を行い、概念枠組みを作成した。

2) コミュニティの CE の過程の明確化

次に、CE の過程を表すと判断した文献（麻原，2000）（中山，2007）（中山，2009）から、CE の状態像の異なる段階の意味を読み取り、その意味を表す段階名と具体的な状態像を示した。

3) コミュニティの CE の過程に沿った概念枠組み各要素の内容抽出

コミュニティの CE の過程に沿って、概念枠組み各要素の内容を検討した。状態像は、コミュニティの CE の過程毎に、文献の中から CE の過程に特徴的な状態像と保健師の支援行動の判断の根拠になった状態像を抜き出して整理した。コミュニティへの支援の場合、保健師の情報収集とアセスメントの視点は、住民個人と地域組織、コミュニティ全体の各領域が相互作用をしながら混在していた。そこで、CE の状態像は、住民個人と地域組織、コミュニティ全体の領域に整理して、内容を抽出した。住民と保健師との関係性は、データの記述内容に、CE の過程に共通するものが多く含まれたため、全過程に共通する内容として抽出した。

保健師の支援の意図と内容は、記述データから、CE の過程毎に保健師の支援の目的や意味と、意図に基づいて行った支援内容を読み取った。影響要因と保健師の使命・基本的姿勢は、全過程に共通する内容が多く含まれていたため、データから全過程に共通する内容として抽出した。

4. 研究成果

分析の結果、概念枠組みは、地域を基盤にして、「コミュニティ」と「保健師」、「住民と保

「保健師との関係性」,「影響要因」の4次元で構成された。「保健師」は,「保健師の使命・基本的姿勢」の基盤のもとに,「支援の意図」を持ち「支援内容」を行っていた。コミュニティと保健師の間には,「地域組織と保健師との関係性」が位置づいていた。また,それらに影響を及ぼす「影響要因」がみられた。

コミュニティが地域組織活動を通してCEしていく過程は,コミュニティのCEやCEの現象について書かれた文献(麻原,2000)(中山,2006)(中山,2007)から,コミュニティのCEの状態の異なる段階により分類し,6過程に整理された。「地域における健康問題の無意識・無活動期」の段階では,住民は健康問題に気づいておらず,組織的な健康づくり活動がみられなかった。「住民による地域の健康問題の意識化・明確化期」は,住民により地域の健康問題の明確化がされていた。「目標および問題解決方法の決定と計画立案期」は,地域組織として組織化され,活動計画が立案された。「活動開始期」は,地域で活動が開始された。「自主活動期」は,自己決定のもとに企画運営した活動を地域で自主的に行っていた。「健康な地域づくり期」は,地域で住民同士がつながり,お互いに支え合っていた。このように,地域においてコミュニティの住民の問題意識がなく,健康の視点での地域組織活動がない状態から,住民の問題意識が高まり,組織化され,健康な地域づくりに至る過程が示された。

次に,コミュニティが地域組織活動を通してCEしていく過程に沿って,各要素の内容を抽出した。CEの状態像は,住民が自分と住民の健康問題に気づいていない状態から,第3段階時には,地域組織活動への参加者が活動を推進するために発言や行動をするようになり,第6段階では参加者と住民が他者を支えるために主体的に考え,行動し,活動するようになっていた。また,地域で活動をしている地域組織がない状態から,第3段階では,新たな地域組織を結成し,第6段階では地域組織が課題に応じて新たな活動まで生み出していた。さらに,住民同士が協力して,共通の目標を達成するパワーが欠けている状態から,地域全体として,自分たちの責任で地域の問題を解決しようという地域住民の解決力が高まっていた。「住民と保健師との関係性」は,コミュニティが保健師とパートナーシップを築いていた。

「保健師の使命・基本的姿勢」は,住民と共に,個々・地域の健康問題の解決をめざしていた。「影響要因」は,多様性を認める地域文化や支援者と住民が共有する共通の関心,パートナーシップの達成に必要な時間等がみられ,保健師の意図と支援内容に影響していた。「保健師の支援の意図」は,CEの過程に応じて,地域のキーパーソンの発掘から,地域組織を発足することの合意形成を促し,コミュニティが地域組織としてのパワーを高め,主体的に行動することを目指していた。「保健師の支援内容」は,意図に基づいて,住民のレディネスを把握し,住民の対話のしかけをつくり,組織化を支援していた。活動開始後は,参加者が自主的に活動できるように主体性を喚起し,地域組織活動の発展を促していた。

文献

麻原きよみ(2000):エンパワメントと保健活動,保健婦雑誌,56(13),1120-1126.

金子仁子(2001):保健婦活動におけるヘルスプロモーション推進方法に関する研究,平成10年度~平成12年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書,1-27.

Kimiko. Nakayama, Yoko. Hatono, Masako. Kaneko, et al(2017). Challenges and Solution Strategies for Public Health Nurses in promoting Empowerment among

Findings from a Focus Group Interview,5th Worldwide Nursing Conference,41-46.

L.M.Gutierrez,R.J.Persons,E.O.Cox 編著 (発行年次) /小松源助監訳 (2000) :ソーシャルワーク実践におけるエンパワーメント その理論と実際の論考集,3-27,相川書房,東京 .

Marc van Zimmerman(2000):Empowerment Theory:Psychological, Organizational,and Community Levels of Analysis,Julian Rappaport & 南裕子編集(2008) : 看護における研究 , 53 , 日本看護協会出版会 , 東京 .

中山貴美子 (2007) :保健専門職による住民組織のコミュニティ・エンパワメント過程の質的評価指標の開発,日本地域看護学会誌,10(1),49-58.

中山貴美子 (2009) :住民組織活動が地域づくりに発展するための保健師の支援内容の特徴,日本地域看護学会誌,11(2),7-14.

野嶋佐由美 (1996) :エンパワーメントに関する研究の動向と課題,看護研究,29(6),3-14 .

大木幸子,星旦二 (2006) : 地域づくり活動における担い手及びコミュニティのエンパワメント過程とその相互作用に関する研究,The Nonprofit Review,6 (Nos.1&2) ,25-35.

清水準一 (1997) :ヘルスプロモーションにおけるエンパワーメントの概念と実践,看護研究,30(6),9-14 .

清水準一,山崎喜比古 (1997) : アメリカ地域保健分野のエンパワーメント理論と実践に込められた意味と期待,日本健康教育学会誌,4(1),11-18.

田口敦子,岡本玲子 (2004) :ヘルスプロモーションを推進する住民組織への保健師の支援過程の特徴,日本地域看護学会誌,6(2),19-27 .

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Kimiko Nakayama;Yoko Hatono;Masako Kaneko;Emiko Kusano	4. 巻 1
2. 論文標題 Relationship between weak consciousness of supporting Community Organization Activities and Personal Factors of Japanese Public Health Nurses	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The 18th Science Council of Asia Conference	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kimiko Nakayama,Yoko Hatono,Masako Kaneko,Emiko Kusano	4. 巻 1
2. 論文標題 Challenges and Solution Strategies for Public Health Nurses in Promoting Empowerment among Community Organization Activities in Japan:Findings from a Focus Group Interview	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 5th Annual Worldwide Nursing Conference	6. 最初と最後の頁 41-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5176/2315-4430_WNC17.44	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 Kimiko Nakayama,Yoko Hatono,Masako Kaneko,Emiko Kusano
2. 発表標題 Confidence for Community Organization Activities and Related Experiences in Japanese Public Health Nurses
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kimiko Nakayama,Yoko Hatono,Masako Kaneko,Emiko Kusano
2. 発表標題 Relationship between weak consciousness of supporting Community Organization Activities and Personal Factors of Japanese Public Health Nurses
3. 学会等名 The 18th Science Council of Asia Conference（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中山貴美子, 鳩野洋子, 金子仁子, 草野恵美子
2. 発表標題 市町村保健師が抱える地域組織活動展開上の課題
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中山貴美子, 鳩野洋子, 金子仁子, 草野恵美子
2. 発表標題 市町村保健師の地域組織活動に対する苦手意識と経験との関連
3. 学会等名 第21回日本地域看護学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中山貴美子, 鳩野洋子, 金子仁子, 草野恵美子
2. 発表標題 市町村保健師の地域組織活動に対するやりがい感及び苦手意識と自治体の種類との関連
3. 学会等名 第6回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中山貴美子, 鳩野洋子, 金子仁子, 草野恵美子
2. 発表標題 市町村保健師による地域組織活動の経験
3. 学会等名 第76回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kimiko Nakayama, Yoko Hatono, Masako Kaneko, Emiko Kusano
2. 発表標題 Confidence of Public Health Nurses in Japanese Municipalities concerning Community Organization Activities
3. 学会等名 The 7th Hong Kong International Nursing Forum (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kimiko Nakayama, Yoko Hatono, Masako Kaneko, Emiko Kusano
2. 発表標題 Challenges for public health nurses in supporting community organizations
3. 学会等名 The 3rd KOREA-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中山貴美子、鳩野洋子、金子仁子、草野恵美子
2. 発表標題 地区組織活動支援上の課題と解決策
3. 学会等名 第75回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kimiko Nakayama, Yoko Hatono, Masako Kaneko, Emiko Kusano
2. 発表標題 Challenges for public health nurses in supporting community organizations
3. 学会等名 韓日地域看護学会 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中山貴美子、小寺さやか、草野恵美子、鳩野洋子、金子仁子
2. 発表標題 地区組織のコミュニティ・エンパワメントを支援するモデルの検討
3. 学会等名 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鳩野 洋子 (Hatono Yoko) (20260268)	九州大学・医学研究院・教授 (17102)	
研究分担者	金子 仁子 (Kaneko Masako) (40125919)	慶應義塾大学・看護医療学部(藤沢)・教授 (32612)	
研究分担者	草野 恵美子 (Kusano Emiko) (70346419)	大阪医科大学・看護学部・准教授 (34401)	